

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 17 日現在

機関番号：34518

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22730424

研究課題名（和文） ロシアの社会変動と若年層の意識にかんする研究

——社会調査データの検討を通じて

研究課題名（英文） The Study on Social Change and Values of Young People in Russia:
Through Data Analysis of Social Research

研究代表者

松本 かおり（MATSUMOTO Kaori）

神戸国際大学・経済学部・准教授

研究者番号：（80513796）

研究成果の概要（和文）：本研究では、1990年代以降の社会変動期のロシアの若年層をとりまく状況と意識の変化についての調査・考察を行った。第1に、ロシアの大学生の就職活動を取り巻く問題と学生たちの意識についての調査研究を実施した。第2に、大学の市場化、社会での役割や地位の変化が、大学生に及ぼす影響について研究した。第3に、ロシアを含む旧社会主義国で実施された過去の社会調査研究の成果を検討した。第4には、ロシアの社会調査研究に関する成果の公開に取り組んだ。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to examine the life and values of young generation in Russia in the last two decades. Firstly, Survey on the job hunting and changing values of the Russian students was conducted. Secondly, commercialization and changes of the Russian higher education system were analyzed. Thirdly, I reexamined validity of conclusion drawn from previous social surveys that were conducted in the former communist regime countries including Russia, and finally opened the result of these studies on the website.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
2012年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：ロシア、若年層、社会変動、社会意識、大学、就職、ウラジオストク、社会調査

1. 研究開始当初の背景

ソ連崩壊後のロシアでは、社会主義イデオロギーの否定、教育予算の不足などによる教育機関が混乱、若者の高失業率、新規学卒労

働市場の瓦解などが指摘されているように（Даффлон：2008，堀江：2003）、体制転換は若者が社会化するための機能を大幅に低下させた。

イギリスの社会学者 D. Lane やロシアの社会学者 O.クリシュタノフスカヤ

(Крыштановская) は、ソ連時代とソ連崩壊後のエリート層の周流と再生産を、T. Gerber はソ連時代の共産党の幹部や黨員であったことが社会移動に有利に働いたことなどを実証したが、ソ連崩壊以後の若年層の継続的な意識や階層化にかんする量的研究は、D.コンスタンチノフスキー

(Константиновский) や B.マグン (Магун) らの研究に限られていた。また、プーチン元大統領 (元首相) を支持する若者組織「ナシ (Наши)」の活動が、単なる政治組織ではなく高等教育機関をもっているなど、社会変動期に生まれた特異な若者組織として注目されている (Громов: 2009)。

報告者がウラジオストクの極東国立総合大学の学生に対して 2000 年と 2004 年に実施した調査結果を分析したところ、2000 年には学歴や仕事そのものの面白さを重視する学生が多かったのが、2004 年には個人的な感情や仕事上得られる特典に重きをおく方向に変化しており、日本の青年心理学の分野でも確認されている「私生活主義」の傾向がみられた (拙稿 2009)。上述のマグンの調査結果でも、尊敬される仕事や責任ある仕事の価値は 1999 年から 2004 年にかけて低下する傾向にあった。続いて報告者が実施した 2008 年のプロテスタント教会の信者たち (主に 20-30 代) に対するインタビュー調査では、社会が混乱する中で、居場所を失い、麻薬中毒などの問題をかかえたうえで、最終的に教会にたどりついた若者の事例が多くみられ (各教会支部の責任者である牧師も 20 代後半から 30 代の若い世代であった)、若年層をめぐる社会問題は、プロテスタント教会信者の急速な拡大の一因になっていることがわかった (拙稿 2008)。

<参考文献>

- ・堀江典生「ロシアにおける新規学卒者労働市場の変容」『経済学雑誌』104(2), 2003, 84-96.
- ・拙稿「ウラジオストクのプロテスタント—破壊のあとに生まれた絆」津久井定雄他編著『ロシア—祈りの大地』大阪大学出版会, 2008, 191-216.
- ・拙稿「ウラジオストクの職業威信と社会変動—2000 年 2004 年時系列比較分析の結果から」『神戸国際大学紀要』第 77 号, 2009.
- ・Дафлон Д. Молодежь в России: Портрет поколения на переломе // Вестник общественного мнения. №5 (97). 2008. 19-35.
- ・Громов Д.В. Движение «Наши». 2007 год // Молодежные субкультуры Москвы / Институт этнологии и

антропологии российской академии наук. М. ИЭА РАН. 2009. 115-172.

- ・Константиновский Д. Молодежь 90-х: Самоопределение в новой реальности. М. 2000.
- ・Крыштановская О. Фнатомия российской элиты. М. 2005.
- ・Магун В.С. Как меняются российские трудовые ценности // Ответственные записки. 2007. №3(37).
- ・D.Lane and C.Ross, *The Transition from Communism to Capitalism: Ruling Elites from Gorbachev to Yeltsin*, Macmillan Press, London, 1999.

2. 研究の目的

研究開始当初の背景にあげたように、ロシアの社会変動が若年層に与えた影響とその結果は多岐にわたっている。報告者は、本研究の目的として、報告者自身が量的・質的にわたって実施してきた時系列の社会調査を引き続き分析すること、ロシアや旧社会主義国で実施されてきた既存の社会調査の再分析をすること、さらに現代的な若年層の問題を把握するための調査を実施することによって、ロシアの若年層の意識の実態を明らかにすることとした。

3. 研究の方法

第 1 に、報告者が学位論文執筆以来取り組んできた、ロシア・ウラジオストクでの極東連邦大学 (旧極東国立総合大学) における時系列比較調査を継続して実施し、データの整理、分析を行った。第 2 に、若者の意識に大きな影響を与える雇用にかんする研究を行った。具体的には、ウラジオストクの極東連邦大学学生就職活動・実践組織課、モスクワのロシア国立高等経済大学やロシア国立人文大学のキャリアセンターで、大学生の就職活動の現状と大学による支援の取り組みについてインタビュー調査を実施した。第 3 に、既存の社会調査の整理・再分析の一環として、1992-93 年と 96 年にアメリカの社会学者 M.Kohn らがウクライナで実施した職業とパーソナリティ調査の再分析を行った。第 4 には、報告者の研究成果公開のためのホームページを作成した。

4. 研究成果

1990 年代以降の社会変動期のロシアの若年層をとりまく状況と意識の変化について研究した。

第 1 に、ロシアの大学生の就職活動についての情報、例えば、大学生の労働市場、仕事に対する意識、若い専門家の地位、人材の流出、高等教育の役割の変化などについて調査し、研究した。極東連邦大学学生就職活動・

実践組織課長の Г.ポポフ氏へのインタビュー、ロシア国立高等経済大学やロシア国立人文大学のキャリアセンターでのインタビューを実施し、ウラジオストクやモスクワの大学機関による、学生への就職活動支援についての調査結果の成果の一部については、『ユーラシア研究』に執筆した。ウラジオストクでは労働力不足が問題となっているが、必要とされている労働力は、主に外国人労働者が担っている建設労働である。それに対し、高等教育を受けている学生の多くは経済やマネジメントを勉強しており、若年労働市場の需要と供給のミスマッチが生じている。このような事情から、大学生が APEC 景気の恩恵を受けることができなかつたこと、人文・経済系の大学の就職支援活動が無駄にならねず、極東からの若者の人口流出を促進していることなどについて指摘した。

またロシアの大学の就職支援活動の特徴として、教職員と学生が協力して運営している点を指摘した。日本のキャリアセンターでは、学生はお客様扱いであるのとは、大きく異なっている。自立して進路を見定めるためにも、職業経験に準ずる経験を与える機会としても、社会人との接点をつくる場所としても、キャリアセンターが役立っている点は、日本の大学で活用されるべきであろう。

第2に、ロシアを含め、グローバル化の最中に世界中で生じている、大学の市場化、役割や地位の変化についての研究を行った。ロシア国立高等経済大学の社会学部の J.コサルズ氏、Я.ローシャ氏、И.パヴリュートキン氏から、現在のロシアの大学生をとりまく問題についての資料の提供を受けた。ロシアでは、私立大学だけでなく、有名国立大学の分校が各地に設置され、急激に大学の大衆化が進展している。徴兵制との関係も含めての研究が必要であることがわかった。

また、日本の事例として、近年の大学カリキュラムへの資格取得教育導入の意義と成果について研究した。『神戸国際大学経済文化研究所年報』では「とりあえず資格という気持ち」を「実際の学習行動」にうまく結びつけていくしくみづくりこそが重要であるという結果を導き出した。

第3には、旧社会主義国で、ロシアよりも社会調査研究が進んでいた地域、すなわちウクライナ、ポーランド、チェコ、ハンガリーで実施された、過去の調査研究の成果を検討した。例えば、1992-93年と96年にウクライナで実施された職業とパーソナリティ調査データの二次分析を行い、社会変動期の労働者の地位と意識の変化の関連性や使用言語（ロシア語・ウクライナ語）と地位の変化などについて分析し、比較経済体制学会で報告した。またソ連からの干渉を受けながらも、ポーランドを中心として独自の発展を続け

てきた東欧の社会学研究、社会調査について研究した。

第4には、ロシアの社会調査に関する研究成果の公開に取り組んだ。報告者がモスクワとウラジオストクで実施した調査研究結果を海外の研究者に公表するために、英文による論文を "Kobe International University Review" に執筆した。

さらに、日本での研究成果の公開のために、ホームページ『ロシア社会への扉』を開設した。開設にはこぎつけたが、現在のところコンテンツは十分ではない。今後、ロシアの若年層をとりまく社会や意識を中心とした報告者自身の調査研究結果や、ロシアで実施された各種世論調査の結果などについて日本語で解説したコンテンツを、順次追加をしていく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- Matsumoto Kaori, Occupational Evaluations in Russian Society: Finding from Research on Students in Vladivostok and Moscow, *Kobe International University Review*, No. 83, 2012, 9-24.
<http://www.arskiu.net/book/pdf/1357869702.pdf>
- 松本かおり「ウラジオストクの大学生の就職事情——極東連邦大学の取り組みを中心に」『ユーラシア研究』第46号、2012、13-16.
- 松本かおり「大学カリキュラムへの資格取得教育導入のための予備的考察——資格は「魔法の杖」になりうるのか?」『神戸国際大学経済文化研究所年報』第21号、2012、55-68.
- 松本かおり「書評：石川晃弘『体制転換の社会学的研究：中央の企業と労働』（有斐閣、2009）」『比較経済研究』48巻2号、2011、45-49.

[学会発表] (計2件)

- 松本かおり、アレクサンドル・ディボフスキー『社会変動がパーソナリティに与えるインパクト——M.Kohn らによるウクライナパネル調査・二次分析の試み』比較経済体制学会第50回全国大会、於大阪市立大学、2010年6月5-6日.
- Мацумото Каори, «Сюкацу: Трудоустройство японских студентов», Программа межрегиональной научно-практической конференции «Перспективы развития молодежного рынка труда Дальнего Востока» Дальневосточный Федеральный

Университет, Апрель 7-8, 2011. (ロシア)

神戸国際大学・経済学部・准教授
研究者番号：80513796

[図書] (計1件)

- ・ *Matsumoto Kaori*, Сюкацу:
Трудоустройство японских студентов,
отв. Ред. Г.Г. Попова «Перспективы
развития молодежного рынка труда
Дальнего Востока, Четвертая
мажрегиональная
научно-практическая конференция»,
Изд-во Дальневост.федерал. ун-та, 2011
(ロシア) .

[その他]

講演

- ・ 松本かおり 『資格は『魔法の杖』になりうるのか?—大学における資格取得教育—』第27回公開土曜講座「高等教育の変貌と学生に求められる力」, 於神戸国際大学, 2012年3月10日.
- ・ 松本かおり 『日本のサービス・ロシアのサービス?—マナーは企業文化として学ぶもの「Японский сервис, российский сервис?»: манеры как объект изучения в качестве культуры предприятия』在ロシア・ウラジオストク日本センター講義, 於極東連邦大学 (ロシア), 2012年3月23日.
- ・ 同上, 於国立ウラジオストク経済サービス大学ナホトカ分校 (ロシア), 2012年3月24日.

学会指定討論者

- ・ ロシア・東欧学会 2010年度大会共通論題「体制転換の20年—ロシア・東欧の軌跡:第1セッション 日常生活の体制転換」堀林巧(金沢大学)「中東欧の資本主義化と生活保障システムの変容:1989年以後の軌跡」、堀江典生「移民大国ロシアの軌跡—中国と中央アジアからの労働移動に着目して」於天理大学, 2010年10月23-24日.

インタビュー記事

- ・ "Сюкацу": трудоустройство выпускников по-японски" Карьера-Регион //№6(9) май, 2011, с.8-14 (ロシア) .

ホームページ等

- ・ ロシア社会への扉
http://www.kobe-kiu.ac.jp/kyoingyouseki/matsumoto_kaori/index.html

6. 研究組織

(1)研究代表者

松本 かおり (MATSUMOTO Kaori)